Combi

コンビ チャイルドシート

ラクティアターンシリーズ

ラクティアターン ラグジュア/ラクティアターン EG

取扱説明書 品質保証書付

このチャイルドシートは「準汎用」装置として分類されております。
必ず、車種適合をご確認のうえ、ご使用ください。(9ページ参照)

●お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、正しくご使用ください。

●54ページの品質保証書に、必要事項をご記入ください。

●本書は、シートカバー後ろ側のポケットに保管してください。(8ページ参照)

⚠危険 お子さまの体重が9kg以上になるまで前向きで使用しないこと。

準汎用型：質量グループ0+.1
体　　重：～18kg以下の乳幼児用

お使いいただく前に

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。
お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、正しくご使用ください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。また、チャイルドシートを使用するときは、必ず保護者の方が同乗してください。

●表示について

本書では、安全に正しくご使用いただくため重要な事項を「危険」、「警告」、「注意」の表示で説明しております。重要事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表　示	表示の内容
⚠危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性が想定される内容です。
ワンポイント	チャイルドシートをご使用いただく上で知っておいていただきたいこと、および知っておくと便利な内容です。

もくじ

■お使いいただく前に

■車に取り付ける前に

■車への取り付け

■車からの取りはずし

■お手入れ

お子さまの体重にあわせた使いかた

ここでは、お子さまの体重によるシート部の向き、インナークッションなどの使いかたを説明しています。
お子さまの体重にあわせて正しくお使いください。

お子さまの体重にあわせて、3段階の使いかたをします。

1 体重7kg未満の場合

○身長の目安：～60cm程度

〔年齢の目安：新生児～4ヶ月ころ
（首がすわるころ）〕
※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上。

使いかた

①進行方向に対して後向き
②肩ベルト通し穴の位置は下側2段のいずれかを使用する（29ページ参照）
③インナークッションは頭部用と座面用を必ずセットで使用する（19ページ参照）

お子さまへの負担を考え、長時間連続してのご使用を避け、1時間程度を目安に休憩をとってください。また、首がすわるころまでは、お子さまの体調の変化に気をつけながらご使用ください。

7kg

2 体重7kg以上～13kg未満までの場合

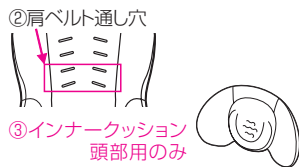
○身長の目安：60～80cm程度

〔年齢の目安：4ヶ月ころ
（首がすわるころ）～1才ころ〕

使いかた

①進行方向に対して後向き
②肩ベルト通し穴の位置は下側2段のいずれかを使用する（29ページ参照）
③インナークッションは頭部用のみ使用し、座面用は使用しない（19ページ参照）

②肩ベルト通し穴

③インナークッション
頭部用のみ

- お子さまの体重が9kg以上になるまで前向きで使用しないこと。
- 「身長の目安」や「年齢の目安」はあくまでも目安です。身長や年齢が上記条件を満たしていても、「体重条件」を満たしていないお子さまはお使いに

13kg

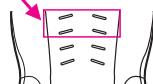
3 体重9kg以上～18kg以下までの場合

○身長の目安：75～105cm程度

〔年齢の目安：1才～4才ころ〕

9kg未満のお子さまは必ず後向きでご使用ください。

使いかた

①進行方向に対して前向き
②肩ベルト通し穴の位置は上側2段のいずれかを使用する（29ページ参照）

●インナークッションは使用禁止
●ベースカバーは使用禁止

その他の条件

●後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

④ベース部に足が届くようになったらベースカバーを使用する（21ページ参照）

9kg

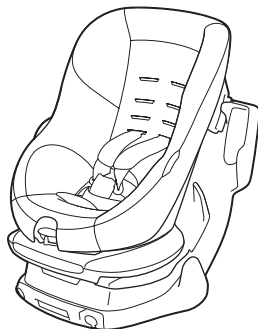
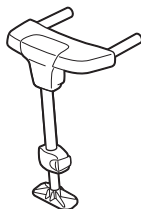
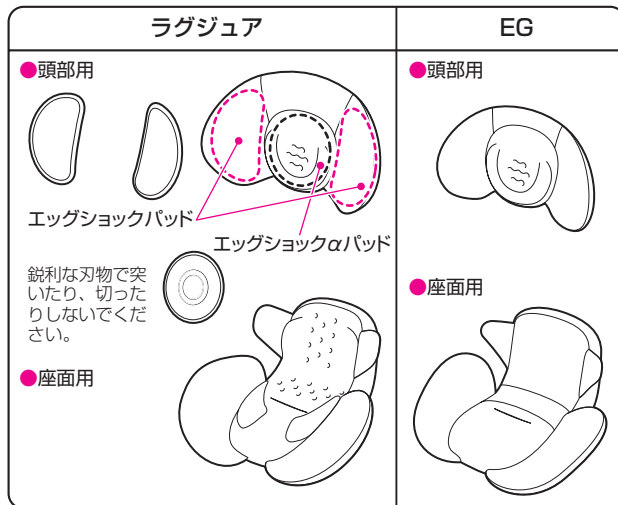
18kg

●体重9kg以上～13g未満のお子さまは、後向き、前向きどちらでもお使いいただけます。

なれません。

各部のなまえ

梱包内容 **ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。**

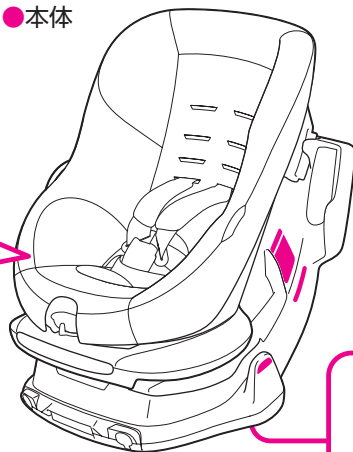
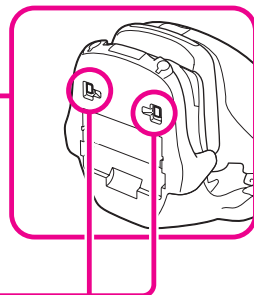
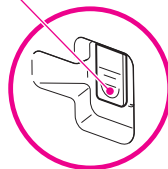
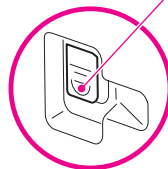
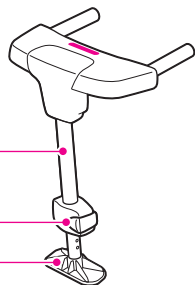
本書に使用しているイラストは、操作方法などをわかりやすく説明するため、製品とは若干異なる場合があります。

ラグジュアのエッグショックαパッドとエッグショックパッドについて

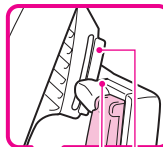
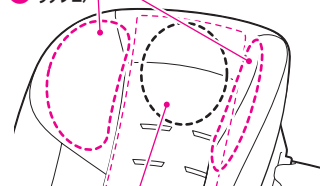
※パッド類はインナークッションからシートカバーへの付け替えが可能です。詳しくは22ページをご覧ください。

※工場出荷時、パッド類はインナークッションに取り付けられています。

つづく

正面

股あてパッド
差込タング
バックルボタン
差込表示
バックル
ベルト調節ボタン
調節ベルト
●本体
●サポートレッグ
サポートレッグ
長さ調節つまみ
レッグエンド
サポートレッグ
取りはずしボタン

各部のなまえ

正面
●本体
エッグショック
（シート部固定）
肩ベルト通し穴
肩ベルトカバー
幼児ベルト
シートカバー
リクライニング
レバー
回転解除レバー
●ベース上部
溝
レール
ベースカバー
取り付け部
ロック機構
タングキーパー
ベースカバー
取り付け部
肩ベルトガイド
腰ベルトガイド
ガイド部
エッグショックパッドポケット
（シートカバー裏面）
●ラグジュア
エッグショックαパッド
ポケット（シートカバー裏面）
エッグショックα（シート部固定）
鋭利な刃物で突いたり、
切ったりしないでください。
●EG

背面・側面

取扱説明書（収納ポケットに入れて保管して下さい）

シートカバー

肩ベルト通し穴

シートカバー
取り付けフック

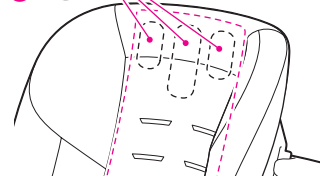
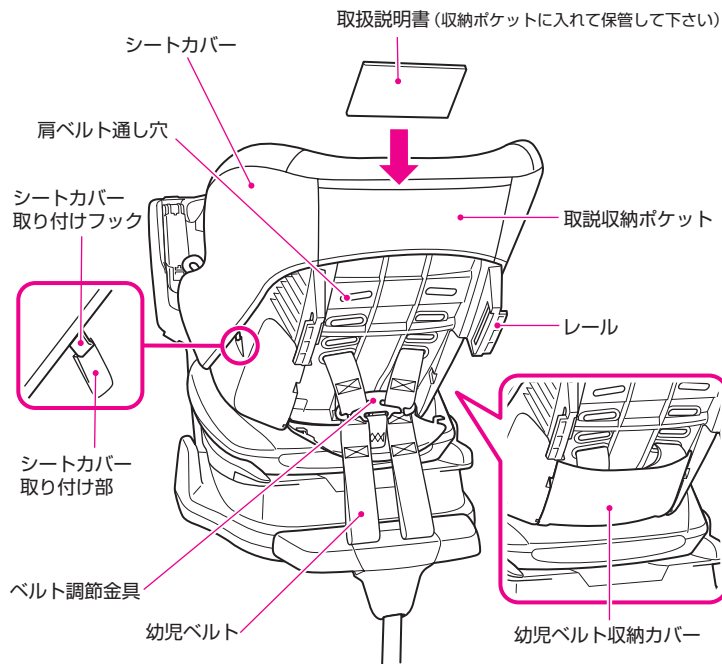
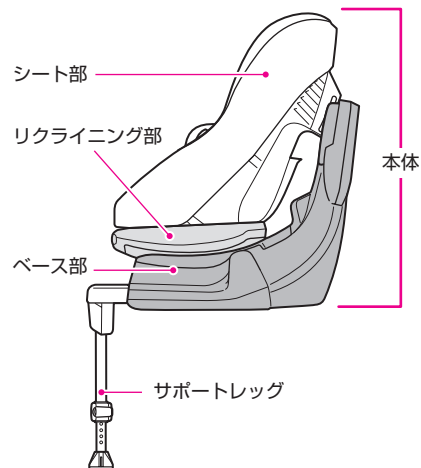
取説収納ポケット

レール

シートカバー
取り付け部

ベルト調節金具

幼児ベルト

幼児ベルト収納カバー

本書で使われる「本体」「シート部」「ベース部」「リクライニング部」とは、以下の部分をいいます。

シートベルトの種類と使用上の注意

チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けかたが異なったり、取り付けられない場合があります。

本装置はUN/ECE規則No.16または、他の同等の基準に基づいて認可された3点式シートベルトを装備した車種に限り使用するのに適しています。

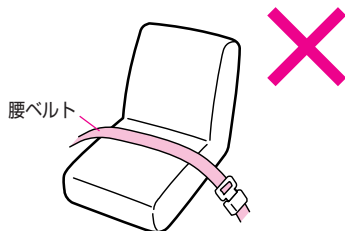
※日本国内で登録されている自動車は、ほぼ適合しております。車種適合につきましては下記サイトにてご確認になるか、チャイルドシート販売店にてご相談ください。

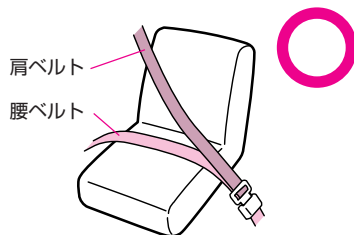
パソコンから http://www.combibaby.com/
携帯電話から http://www.combibaby.com/i/

コンビ　適合

⚠ 危険	● 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。 ● 2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

2点式シートベルトとは

図のように、肩ベルトがなく、腰ベルトの左右2点で体を支えるシートベルトのこと。

3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。

	シートベルトの種類	シートベルトの特徴 （見分け方）	本製品の取り付け注意点
3点式シートベルト	ELR	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	ゆっくりとシートベルトを引き出して、チャイルドシートを取り付けてください。
	AELR	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すとチャイルドシート固定機能がはたらき、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	チャイルドシートの取り付けが終わったら、シートベルトを全て引き出した後ベルトを戻し、チャイルドシート固定機能をきかせてください。
	NR	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	チャイルドシートにあわせてベルトの長さを調節して、チャイルドシートを取り付けてください。
	NLR	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。	
	ALR	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	

取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

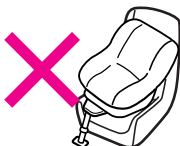
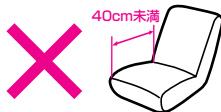
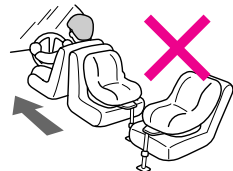
●シートベルトの付いていない座席。

●2点式シートベルトの座席。

●エアバッグ装備の座席。

…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

●極端なバケットシート。

…座面の中央が深くへこんでいる座席。

●座面の奥行きが40cm未満の座席。

●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。

●座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

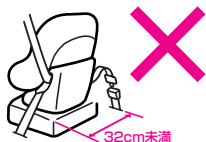
●パッシブシートベルトとは

…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。（オートマチックシートベルト）

●シートベルトの長さが極端に短い座席。

次の条件のいずれか１つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●シートベルトの取り付け幅※が32cm未満の座席。

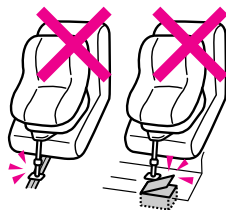
※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。

●シートベルトが座席の中間から出ている座席。

…チャイルドシートのシートベルト通し部の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。

●ヘッドレスト部が極端に出っぱっている座席。

…ヘッドレスト部の形状により、リクライニング操作や回転操作ができない座席。

※ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずすことで操作が可能になればその座席でも取り付けできます。

●サポートレッグの先端部に座席のスライドレールや床下収納スペースなどがある座席。

●床に対して座面が低い座席または高い座席、床の形状などにより、サポートレッグを正しく調節できない座席。

安全にお使いいただくために

⚠危険

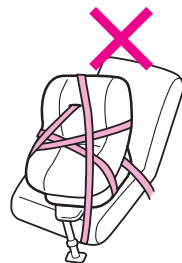
次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

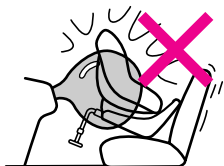
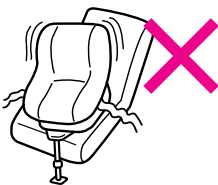
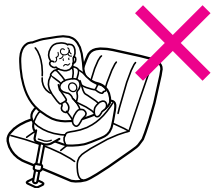
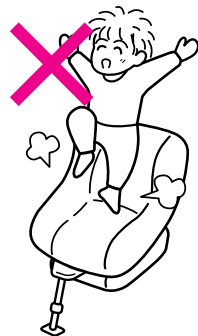
●使用条件に適合しないお子さまや、取り付けできない座席などでは、使用しないでください。

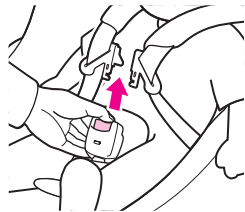
●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

●サポートレッグを取り付けない状態で使用しないでください。必ず本体に取り付け、長さを調節して使用してください。
（39ページ「車への取り付けかた」参照。）

●車に取り付けるときは、シートベルトを取扱説明書および本体表示に従って正しく通して取り付けてください。誤った部分を通して取り付けないでください。

つづく

⚠危険

●エアバッグ装備の座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。

●チャイルドシートのシート部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)

●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。
座らせたときには、お子さまに股あてパッド、幼児ベルトが正しく装着され、左右の差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。

⚠緊急時の脱出

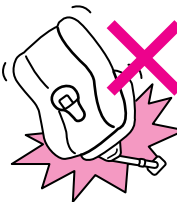
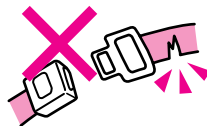
事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタンを押し、幼児ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。

⚠警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

- 幼児ベルトは正しい長さに調節してください。(29ページ・33ページ参照)

●後向きで使用する場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください(19ページ参照)

●衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。

●車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。

●バックルにゴミなどが詰まって確実に差し込めない場合は修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合わせください。

●幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合わせください。

●お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。はずれていると本来の働きをせず、さらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。

つづく

⚠ 警告

●お子さまを車内に1人で放置しないでください。
日差しの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の原因となります。必ず保護者の方が同乗してください。

●車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが、車のヘッドレスト部にぶつかり回転操作できない場合があります。その状態のままで、無理に回転させないでください。故障の原因になります。

次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

●お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。

●助手席にチャイルドシートを後向きに取り付け､ドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。

●シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

●2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

⚠ 日常の点検

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

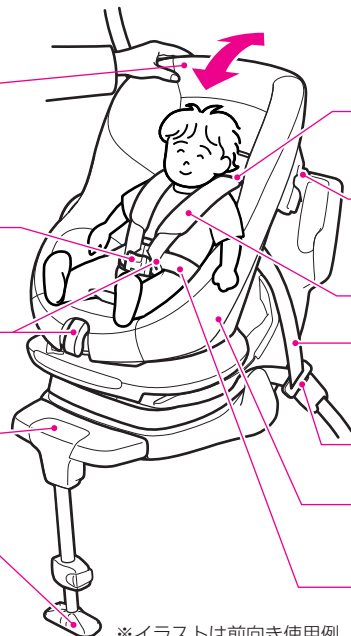
チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること（本体を前後にゆすり、確認してください）

差込タングがしっかりとバックルに差し込まれ、差込表示が緑に変わっていること

幼児ベルトがお子さまの体にフィットしていること（調節ベルトを引いてフィットさせてください）

サポートレッグが本体にしっかり固定されていること

レッグエンドが床につくように、サポートレッグの長さが調節してあること

※イラストは前向き使用例

幼児ベルトが肩ベルト通し穴の正しい位置に調整されていること

前向き使用時、シート部背面のレールがベース上部の溝に入り、シート部が確実に固定されていること

幼児ベルトにねじれやたるみがないこと

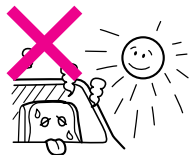
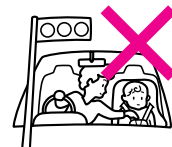
車のシートベルトにゆるみ、たるみ、ねじれがないこと

車のシートベルトの差込金具がしっかりとバックルに差し込まれていること

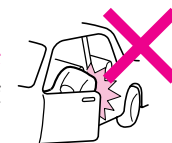
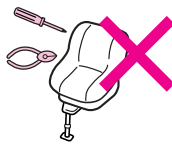
回転操作後、シート部がロックされ確実に後向きまたは前向きになっていること

お子さまの骨盤をしっかりと拘束するように、必ず幼児腰ベルトを低く下げること

⚠注意

●直射日光が当たると、本体や差込タングなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。夏などの日差しが強い日は、日かげに駐車するか、チャイルドシートにカバーなどをかけてください。また、お子さまを乗せる前に各部をさわり、熱くないことを確認してから使用してください。

●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。

●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがをするおそれがあります。本書に記載されていない使いかたをしないでください。

●座席の表皮素材（革など）および形状によっては、取り付けた座席に傷や跡がつくおそれがあります。別売りの「コンビ ズレ防止・保護シート」の使用をおすすめいたします。

●チャイルドシートを車のシート可動部やドアにはさまないように、十分注意してください。

●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。

●車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。

●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

●シートカバーなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。（衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります）

●固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たるおそれがあります。

インナークッションの使いかた

インナークッションは小さな赤ちゃんを保護するためのもので、「後向き」使用時のみ使用します（工場出荷時、インナークッションは取り付けられています）。お子さまの体重によって使いかたが異なります。お子さまの体重が7kg未満の場合は、頭部用と座面用を必ずセットで使用してください。お子さまの体重が7kg以上の場合は、頭部用のみ使用してください。

⚠警告

- インナークッションは、誤った取り扱いをすると本来の機能を果たさず危険です。使いかたをよくお読みになり、正しく使用してください。
- 「前向き」使用時は、インナークッションを使用しないでください。
- お子さまの体重が7kg未満の場合、頭部用と座面用を必ずセットで使用してください。
- お子さまの体重が7kg以上の場合、頭部用のみ使用してください。

⚠注意

- はずしたインナークッションを車内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

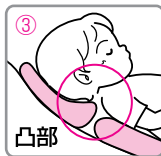
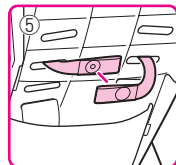
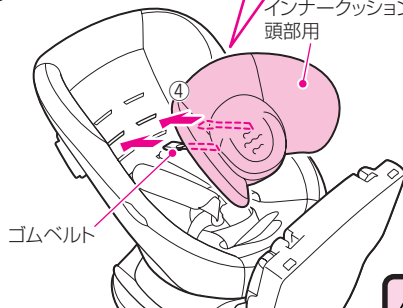
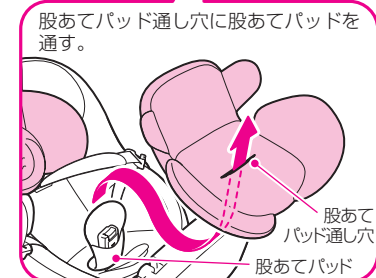
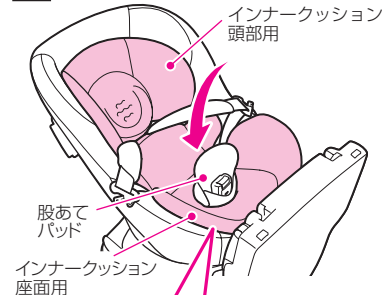
お子さまの体重にあわせて、3段階の使いかたをします。

●体重9kg以上～13kg未満のお子さまは、後向き、前向きどちらでもお使いいただけますが、体重にかかわらず「前向き」使用時はインナークッションを使用しないでください。

＜頭部用・座面用の両方＞ 使用期間：「後向き」使用時、体重7kg未満
＜頭部用のみ＞ 使用期間：「後向き」使用時、体重7kg以上～13kg未満

1 インナークッション頭部用を取り付ける。

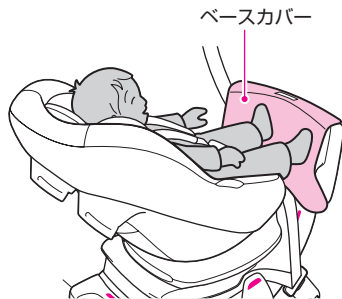
①シート部を回して後向きにし（25ページ参照）、②シート部裏側からゴムベルトのホックをはずし、インナークッション頭部用の取り付け取りはずしをする。

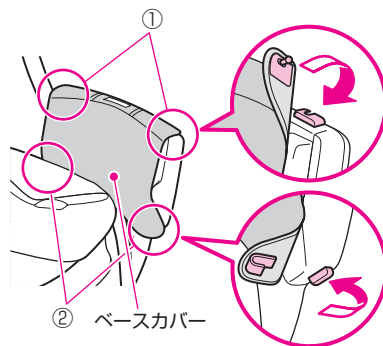
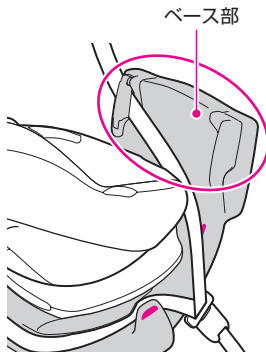
③凸部がお子さまの首に合うように位置を決め、④ゴムベルトを左右同じ高さの肩ベルト通し穴に通し、⑤ホックをとめる。

2 インナークッション座面用を取り付ける。

⚠警告

- お子さまの体重が7kg以上では、座面用は使用しないでください。

ベースカバーの使いかた

使用期間：「後向き」使用時、
ベース部に足が届くようになったら

後向き使用の際、お子さまの足がベース部に届くようになったら、ベースカバーを使用し足を保護してください。

ベースカバーを取り付ける。

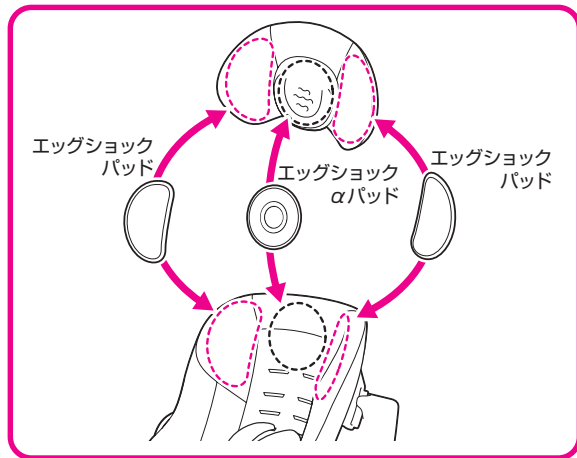
ベースカバーをベース部にかぶせ、①上部のフック、②下部のフック、あわせて4つのフックを取り付け部に固定する。

⚠注意

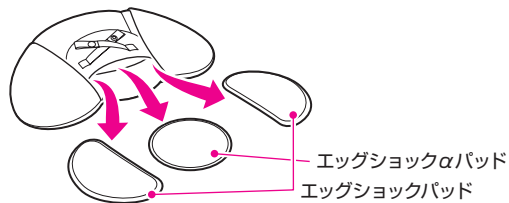
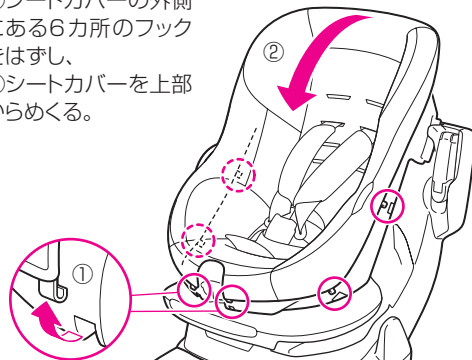
- ベースカバーを取り付けない状態でベース部を素足で蹴ったりこすったりすると、足にすり傷ができる場合があります。
- 靴を履いてのご使用の際は、ベースカバーを取りはずしてください。ベースカバーの破損の原因になります。

⚠警告

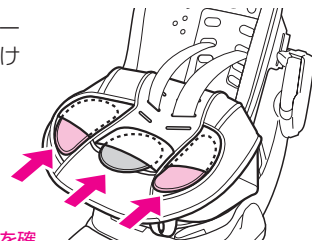
- ベースカバーは、後向き使用時のみ取り付けてください。
- ベースカバーは、前向き使用時は取りはずしてください。
- チャイルドシートを車の座席に取り付けてからベースカバーを取り付けてください。

エッグショックα・エッグショックパッドの使いかた（ラグジュアのみ）

エッグショックαパッドとエッグショックパッドは、インナークッションからシートカバーへの付け替えが可能です。
（パッド類は工場出荷時はインナークッションに取り付けられております）
※エッグショックαパッドとエッグショックパッドは、取り付けなくてもチャイルドシートをお使いいただけます。

1 インナークッションの裏側から、パッド類を取り出す。

エッグショックαパッド
エッグショックパッド

2 ①シートカバーの外側にある6カ所のフックをはずし、
②シートカバーを上部からめくる。

3 パッド類をシートカバーの裏側のポケットに付け替える。

お子さま側（表側）

※取り付ける際は「向き」を確認してください。丸い溝のある方がお子さま側です。

車に取り付ける前に

リクライニングの使いかた（前向き使用時のみ）

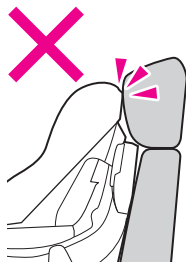
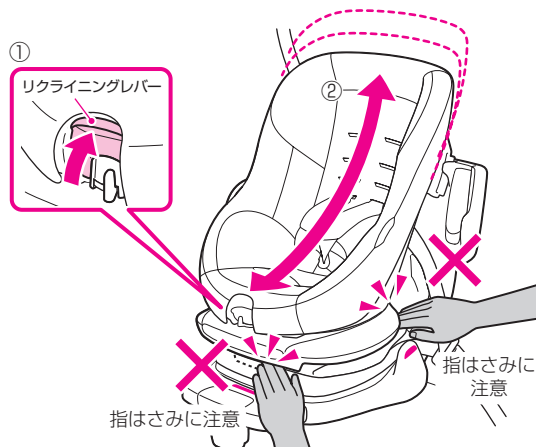
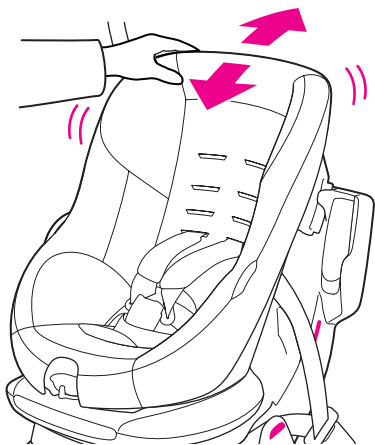
お子さまが眠ったときなどのために、シート部の角度を寝かせることができます。
※後向き使用の場合、リクライニングはできません。

⚠注意
- シート部の背部やリクライニング部の下部のすき間に手や指を入れたまま､リクライニング操作しないでください。
- 同乗者の手元にも十分ご注意ください。
- リクライニング操作は､必ず車を停車させて行ってください。

⚠警告

チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作ができない場合があります。

- 無理に操作すると故障の原因になります。ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。
- ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

※ ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもお使いいただけます。

1 ①リクライニングレバーを上げながら、
②シート部のリクライニングの角度を調節する。
（3段階）

2 レバーから指を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされていることを確認する。

シート部の回転のしかた（前向きから後向きへ）

⚠ 危険

● チャイルドシートのシート部を横向きにしたまま走行しないでください。横向きでは、本来の機能を果たさず危険です。

⚠ 警告

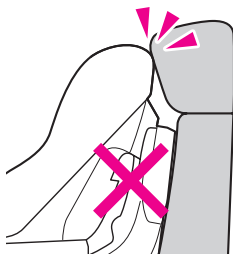
チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

● 無理に操作すると故障の原因になります。ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。

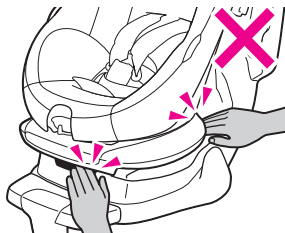
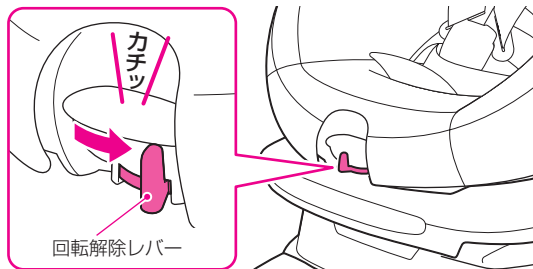
● ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

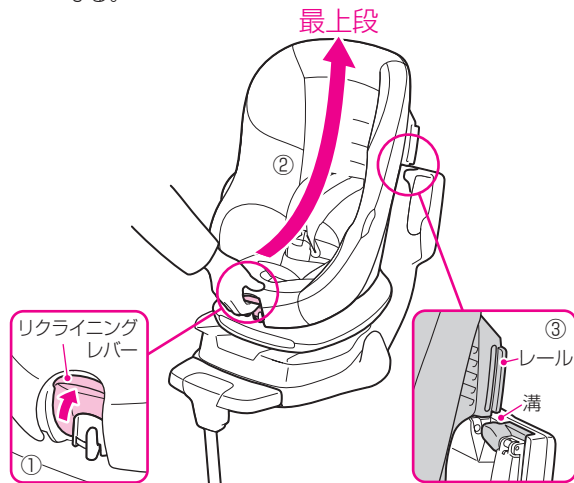
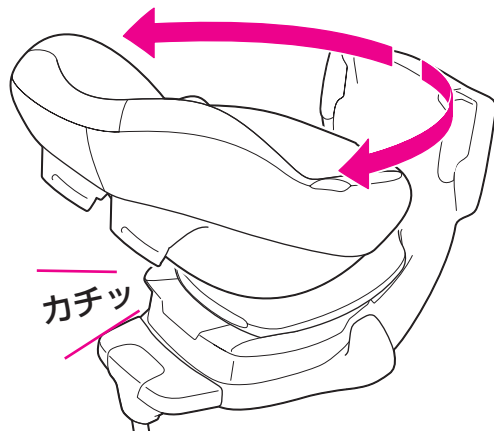
※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもお使いいただけます。

● ロック機構が開いた状態でシート部を回転しないでください。故障の原因となります。

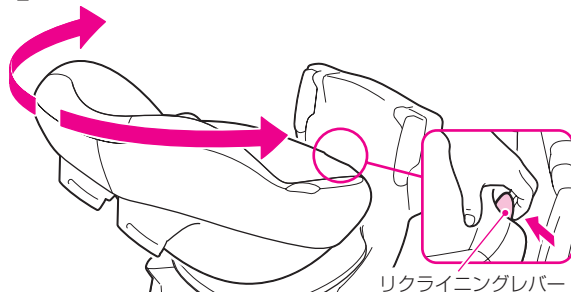
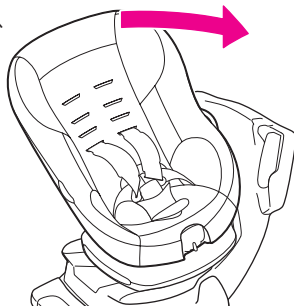
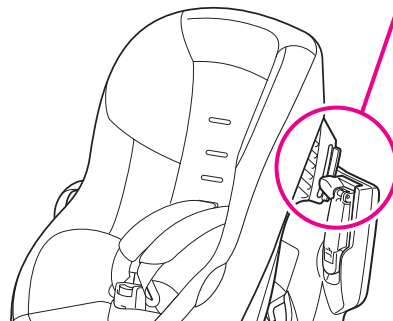
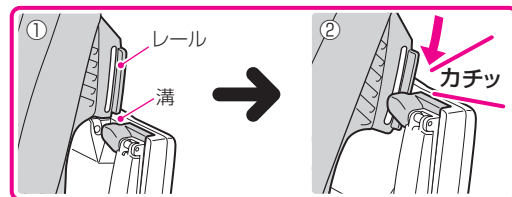
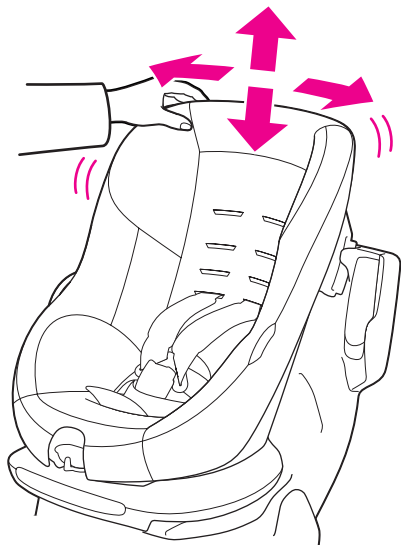
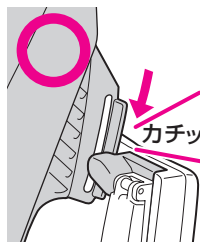
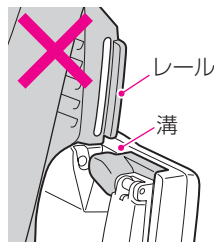
⚠ 注意

● シート部の背部やリクライニング部の下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作しないでください。

● お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部とシート部の間などにはさまらないようご注意ください。

● シート部はゆっくりと回転させ、お子さまの手足が本体などにぶつからないようご注意ください。

1 回転解除レバーを「カチッ」と音がするまで右へスライドする。

2 ①リクライニングレバーを上げたまま、②シート部を最上段まで強く押し込む。③シート部背面のレールがベース上部の溝からはずれ、シート部の回転が可能になる。

⚠警告
- 最上段以外では回転操作を行わないでください。むりに回すと故障の原因になります。

3 そのままシート部を回し、動き始めたらリクライニングレバーから指を離す。
シート部が後向きになると、『カチッ』と音がしてロックする。

4 シート部を左右に動かして、確実にロックされていることを確認する。

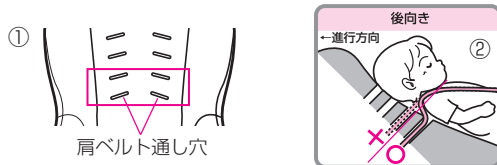
シート部の回転のしかた（後向きから前向きへ）

1 リクライニングレバーを上げ、シート部を回す。動き始めたら、リクライニングレバーから指をはなす。

2 シート部を回し、前向きにする。

3 シート部が前向きになったら、①レールを溝の位置に合わせて、②「カチッ」と音がするまでシート部を下げ、シート部とベース部を固定させる。

4 シート部を上下左右に動かし、確実にロックされていることを確認する。

- シート部のレールがベース上部の溝に入らない状態では、シート部とベース部が固定されておらず、万一の際に本来の機能を果たさず危険です。
- 前向き使用時は、必ずシート部を「カチッ」と音がするまで下げ、レールが溝に入り、シート部が固定されていることを確認してください。

お子さまにあわせた肩ベルトの調整のしかた

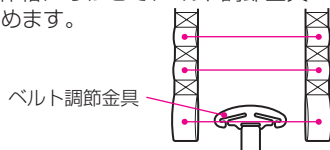
肩ベルト通し穴の位置は、シート部の向き（後向き・前向き）で選ぶ位置が異なります。
お子さまの肩の高さにあわせて肩ベルト通し穴の位置を決め、**お子さまの体格**にあわせて幼児ベルトの長さを決めます。

●後向き使用時（新生児から13kg未満まで）

1 肩ベルト通し穴の位置

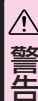
①下側2段のいずれかの肩ベルト通し穴を使用する。
②肩よりすぐ下の肩ベルト通し穴を使用する。

警告
- 後向き使用時の肩ベルト通し穴位置は、必ず下側2段のいずれかを使用してください。
- お子さまの肩よりすぐ下の肩ベルト通し穴を使用してください。

2 ベルト調節金具への取り付け位置

お子さまの体格にあわせて、ベルト調節金具への取り付け位置を決めます。

⚠警告 ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。

●前向き使用時（9kgから18kg以下まで）

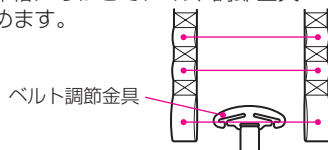
1 肩ベルト通し穴の位置

①上側2段のいずれかの肩ベルト通し穴を使用する。
②肩よりすぐ上の肩ベルト通し穴を使用する。

⚠警告
- 前向き使用時の肩ベルト通し穴位置は、必ず上側2段のいずれかを使用してください。
- お子さまの肩よりすぐ上の肩ベルト通し穴を使用してください。

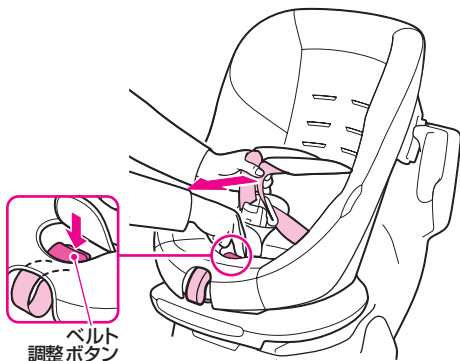
2 ベルト調節金具への取り付け位置

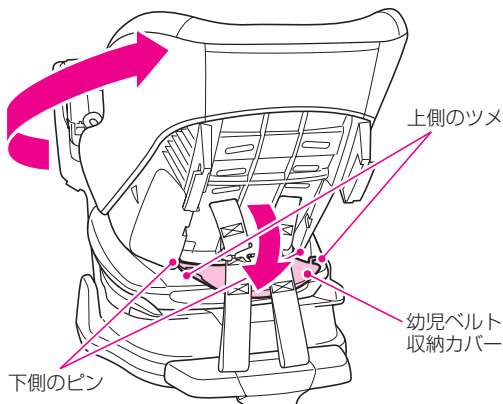
お子さまの体格にあわせて、ベルト調節金具への取り付け位置を決めます。

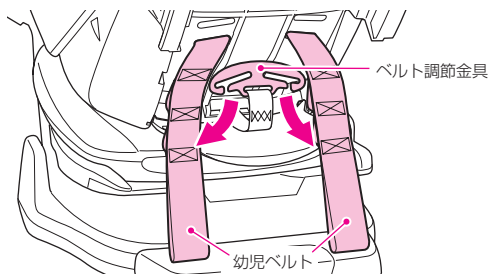
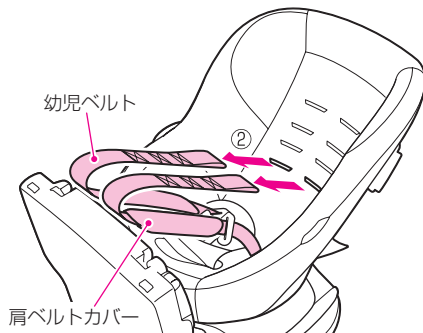
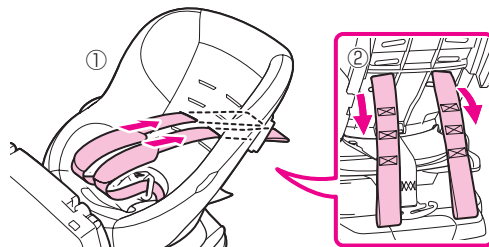
⚠警告 ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。

つづく

1 お子さまをチャイルドシートに座らせ、正しい肩ベルト通し穴の位置を確かめる。(29ページ1「肩ベルト通し穴の位置」参照)

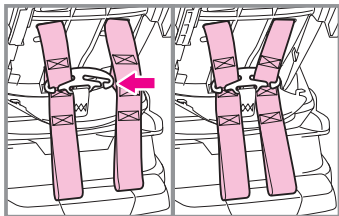
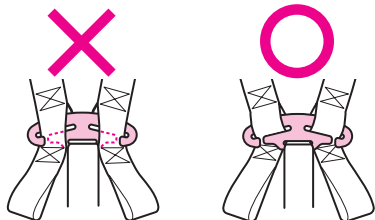
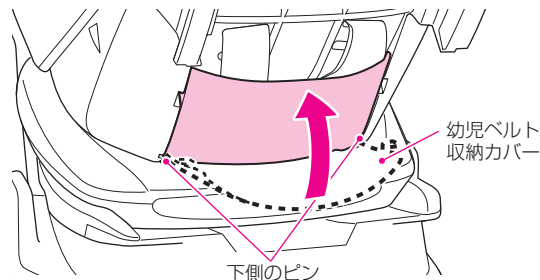
2 ベルト調節ボタン(オレンジ色)の『PRESS』を押しながら、左右の幼児ベルトの両方を持ち、手前に引けなくなるまで引き出す。

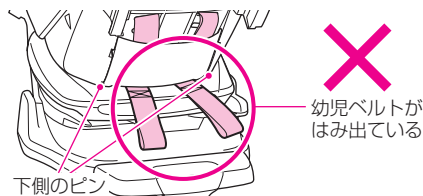
ワンポイント ● ベルト調節ボタンが動かない場合は、調節ベルトを手前に引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

3 シート部を回して後向きにし、幼児ベルト収納カバーの上側のツメをはずし、図のように開く。(シート部の回転のしかたは、25ページを参照)

⚠注意

- 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のピンは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。
- 幼児ベルト収納カバーは、肩ベルト位置の変更後、必ず元の位置に戻してください。幼児ベルトがからまるなど、故障の原因となります。

4 ベルト調節金具から幼児ベルトをはずす。

5 幼児ベルトを、シート部の前側から引き抜く。

6 ①幼児ベルトをお子さまの肩の位置にあった肩ベルト通し穴に入れ直す。(29ページ1「肩ベルト通し穴の位置」参照)
②幼児ベルトをシート部背面に引き出す

⚠警告	肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

7 幼児ベルトを取り付ける。
お子さまの体格にあわせて、ベルト調節金具に取り付ける。

警告

- ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。
- ベルト調節金具に幼児ベルトを取り付けるときは、正しく取り付けられた状態をすぐに確認できるように、ベルト調節金具の切り込み位置が見えるように取り付けてください。

8 幼児ベルトが出ないように、幼児ベルト収納カバーを閉じる。

注意

- 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のピンは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。

お子さまの座らせかた

あらかじめ、ベルト通し穴の位置と幼児ベルトの長さを お子さまの体にあわせてください。（29ページ参照）

⚠警告

- おくるみなど、両足が分かれない衣類の着用はおやめください。

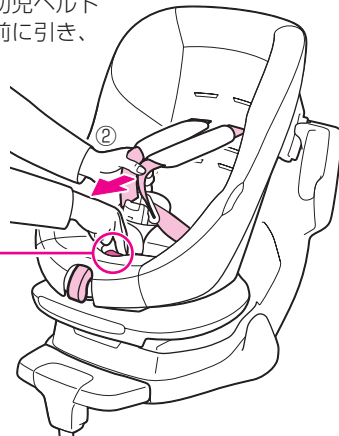
- お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せないでください。
- かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せないでください。
- お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

- シート部を回して横向きにすると、お子さまを乗せやすくなります。（シート部の回転のしかたは、25ページと27ページを参照）

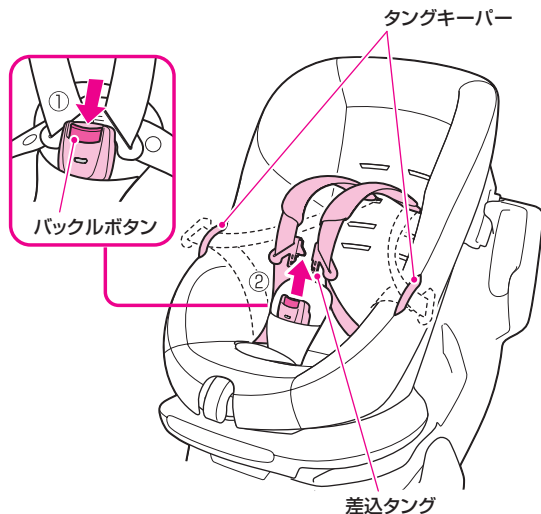
1 ①ベルト調節ボタン（オレンジ色）の『PRESS』を押しながら、②左右の幼児ベルトの両方を持ち手前に引き、ゆるめる。

ベルト
調整ボタン

- ベルト調節ボタンが動かない場合は、調節ベルトを手前に引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

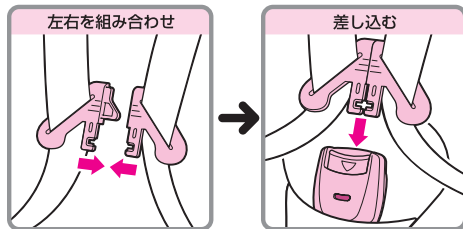
つづく

2 ①バックルボタンを押して、②差込タングを抜く。

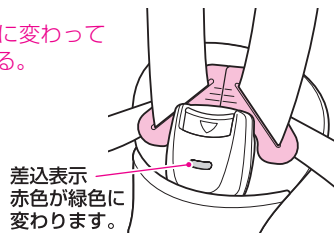
ワンポイント

● 差込タングをシートカバー側面にあるタングキーパーに差し込んでおくと、お子さまの乗せ降ろしのときに、じゃまになりません。

3 ①お子さまを深く座らせ、②左右の腕を幼児ベルトに通し、③インナークッション頭部用の凸部がお子さまの首に合うように位置を調節する。④肩ベルトカバーをお子さまの肩の位置にあわせる。

インナークッション頭部用

肩ベルトカバー

4 左右の差込タングを組み合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タングをバックルに差し込む。

ワンポイント
- バックルのボタンは、お子さまの力でははずれないように固くしてあります。

5 差込表示が『緑色』に変わっていることを確認する。

⚠警告
- 左右の差込タングが、確実にバックルに差し込まれていないと、衝突時にお子さまが飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

6 お子さまを乗せ終わったら、幼児ベルトを短く調整する。調節ベルトの上側を手前に引き、左右の幼児ベルトをお子さまの体にフィットさせる。

お子さまの骨盤をしっかりと拘束するように、必ず幼児腰ベルトを低く下げること。

ワンポイント
- 調節ベルトの下側を引いても幼児ベルトは短くなりません。上側を引いてください。

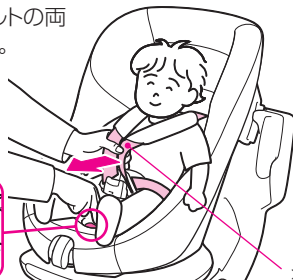
ワンポイント

- お子さまが窮屈でないように、また幼児ベルトがたるんだり、ゆるまないように調節してください。
- お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入るくらいが適切です。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児ベルトの長さを調節してください。

⚠ 警告

- 必ずベルトの長さを調節してください。お子さまの体にフィットしていないと、衝突時にお子さまが飛び出したりするおそれがあります。
- 調節ベルトを引っ張りきってもたるみがある場合は、ベルト調節金具への取り付け位置を変えてください。(29ページ参照)
- 幼児ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

幼児ベルトを長くするには(お子さまをおろすときは)

ベルト調節ボタン(オレンジ色)の『PRESS』を押しながら、左右の幼児ベルトの両方を持ち手前に引く。

ワンポイント

- ベルト調節ボタンが動かない場合は、調節ベルトを手前に引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

7 シート部を回し、お子さまの体重にあわせて後向き、または前向きにして使用する。(3ページ参照)

⚠ 注意

- お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部とシート部の間などにはさまらないようご注意ください。
- ゆっくりと回転させ、お子さまの手足が本体などにぶつからないようにご注意ください。

取り付け準備

ここでは、本製品の取り付け上の注意と、車への取り付けかたを説明しています。

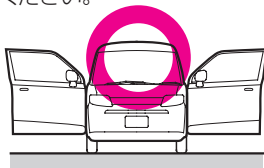
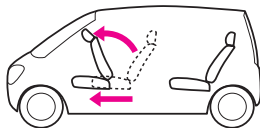
⚠危険

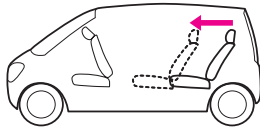
- チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- サポートレッグを取り付けない状態で使用しないでください。必ず本体に取り付け、長さを調節して使用してください。
- 車に取り付けるときは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグ装備の座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- チャイルドシートのシート部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)

⚠警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付け、後向きで使用する場合、ドアミラーが見えにくい場合は後座席に取り付けてください。
- シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

取り付け作業の前に

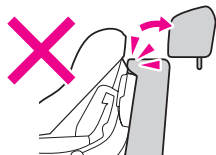
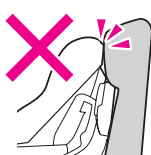
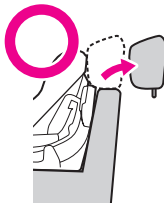
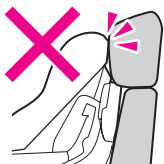
1 取り付け作業は、ドアの全開閉操作が可能な、平らな場所で行ってください。

2 車内の作業スペースを確保するため、前座席をたおしたり、スライドさせてから取り付けてください。

取り付け座席のスライド機能について

取り付け手順終了後に取り付け座席を前にスライドさせると、より確実に固定できます。(46ページ「サポートレッグを調整する」作業の前に行ってください)

車のヘッドレストについて

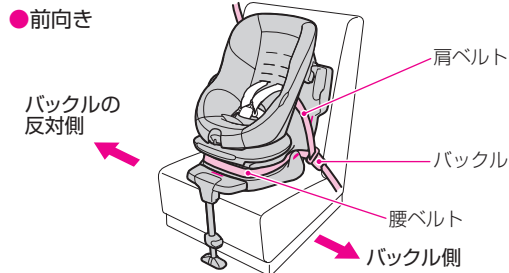
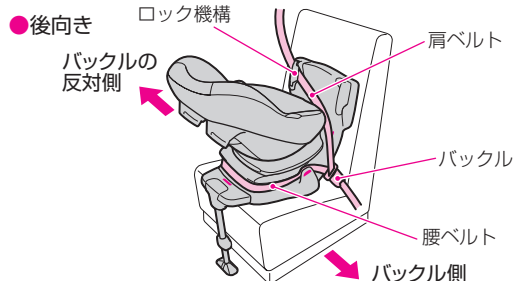
車の座席形状やヘッドレストを確認し、ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。

⚠警告

チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

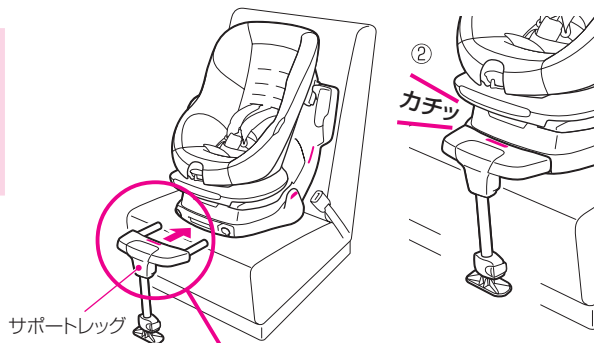
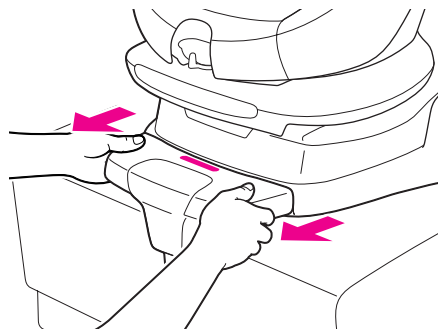
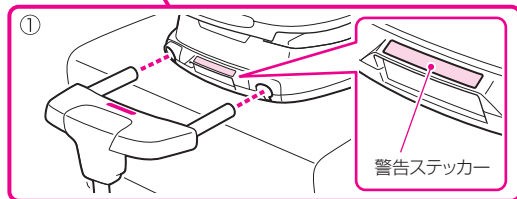
- 無理に操作すると故障の原因になります。ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。
- ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもお使いいただけます。

各部のなまえについて

取り付けの際、よく使われる各部のなまえを確認してください。

車への取り付けかた（後座席への取り付け）

**本製品は、後向きと前向きの2通りの使用方法がありますが、取り付けかたは1パターンのみです。
車への取り付けが完了したあとで、お子さまの体重にあわせてシート部を後向き、前向きに回してご使用ください。**

1 チャイルドシートを車の座席に置き、サポートレッグを取り付ける。
①本体の警告ステッカーが見えなくなり、
②『カチッ』と音がするまで押し込む。

2 サポートレッグの取り付けを確認する。
サポートレッグを引っ張り、左右がしっかり固定されているか確認する。

- サポートレッグの取りはずしかたは、50ページをご覧ください。

⚠ 危険
- サポートレッグを本体に取り付けない状態で使用しないでください。
- サポートレッグを本体に取り付けてから、車への取り付けをおこなってください。
- 左右がしっかりと固定されているか確認してください。

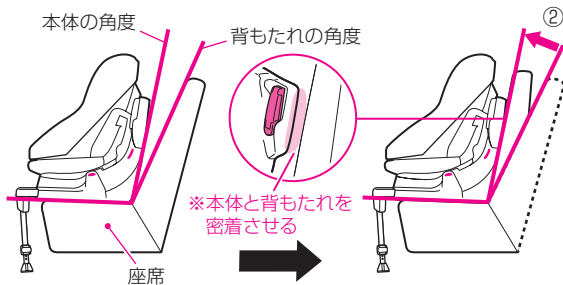
つづく

3 チャイルドシートをしっかり固定させるために、車の座席を調節する。

①座席のヘッドレストが取りはずせる場合は取りはずし（詳しくは38ページ参照）、

②座席の背もたれがリクライニングできる場合は、背もたれの角度を本体の角度にあわせて調節する。

①ヘッドレストを取りはずす

②背もたれの角度を調節する

ワンポイント

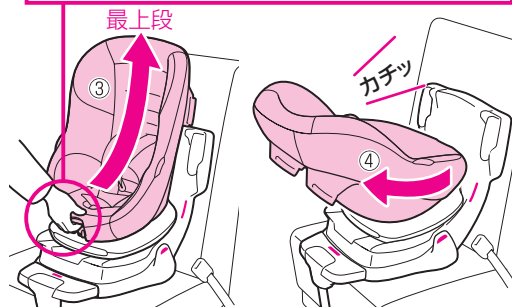
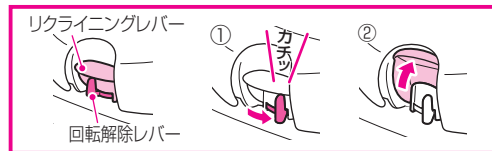
● 車の座席の背もたれの角度を調節することにより、チャイルドシートをしっかり取り付けることができます。

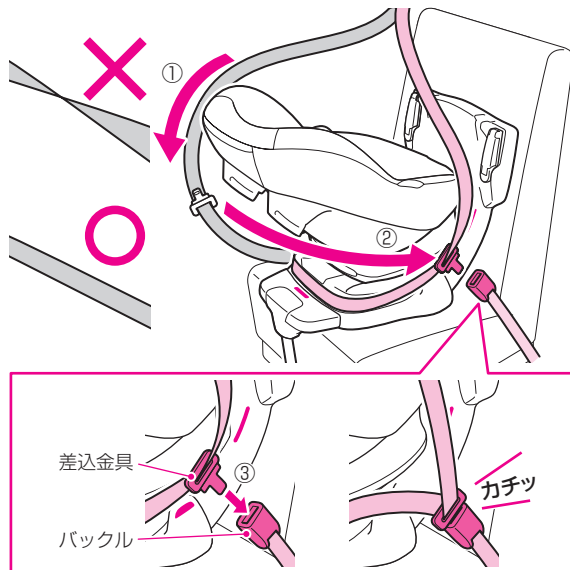
4 シート部を回して後向きにする。

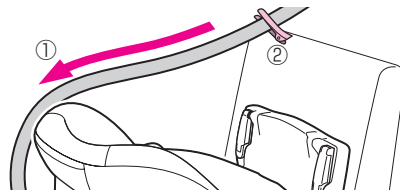
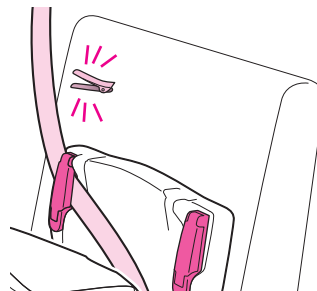
①回転解除レバーを「カチッ」と音がするまで右へスライドする。

②リクライニングレバーを上げたまま、

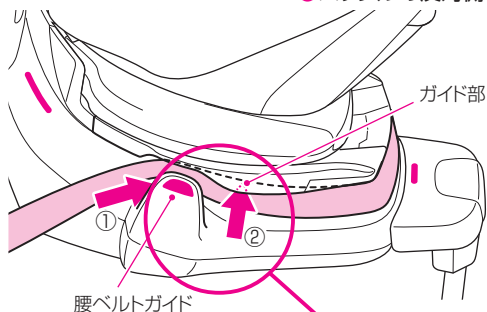
③シート部を最上段まで強く押し込み、

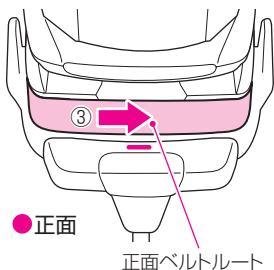
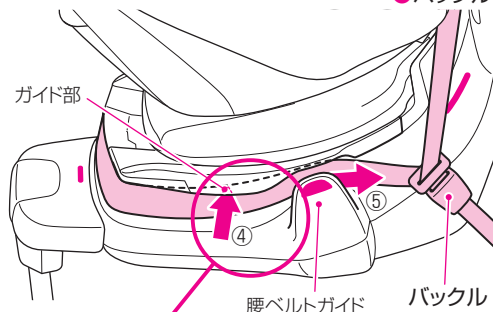
④シート部を回して後向きにする。
（「カチッ」と音がしてシート部がロックする）

⚠注意 シート部の回転のしかたについては25ページをご覧のうえ、正しくご使用ください。

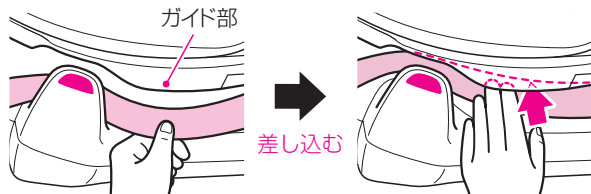
5 車両シートベルトを取り付ける。
①車両シートベルトをねじらないようにゆっくりと引き出しながら、
②シート部の後方をまわし、
③差込金具をバックルに差し込む。

● チャイルドシート固定機能がはたらき、車両シートベルトがロックし、取り付けができなくなる場合があります。
※シートベルトを引き出しすぎないでください。

● 車両シートベルトがロックして取り付けできない場合は、
①車両シートベルトをすべて引き出し、
②クリップなどでベルトが巻き戻されないように仮止めして、チャイルドシートを取り付けてください。
※取り付けたあとで、必ずクリップをはずしてください。

※シートベルトが巻き戻されないようにクリップなどで仮止めしてください。

※チャイルドシートを取り付けたあとで、必ずクリップをはずしてください。

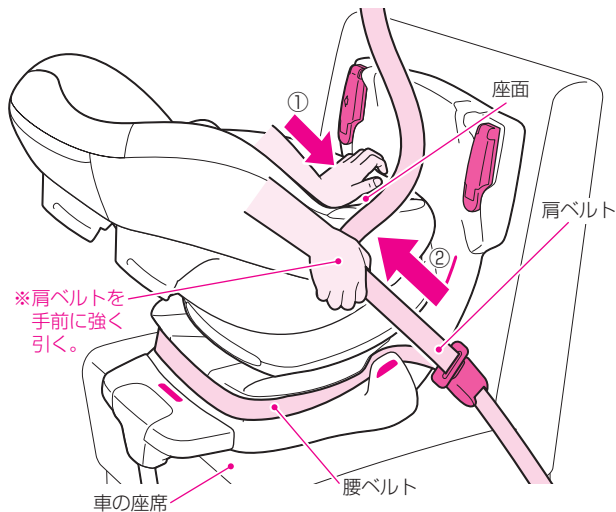
つづく

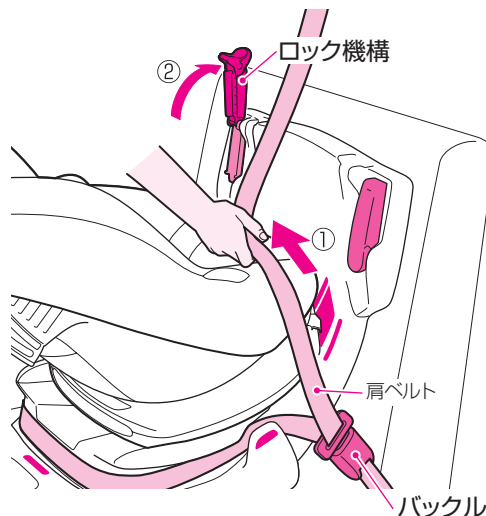
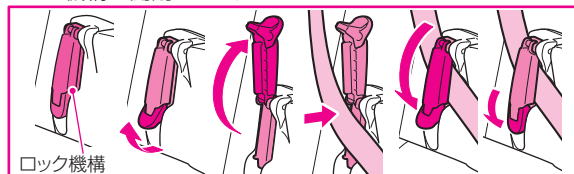
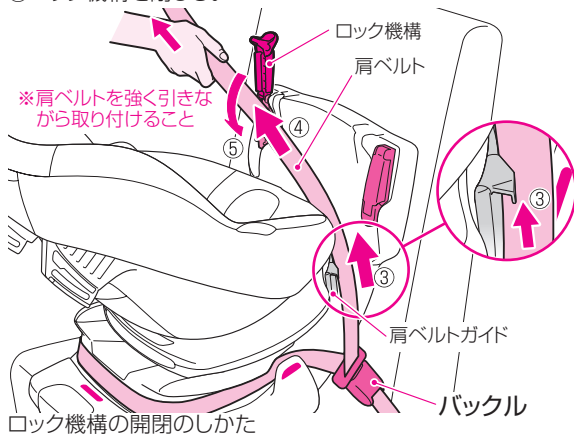
6 腰ベルトを取り付ける。
①バックルの反対側の腰ベルトガイド、②ガイド部、③正面ベルトルート、④バックル側のガイド部、⑤腰ベルトガイドの順に、腰ベルトを通す。

●バックルの反対側

●バックル側

②と④について

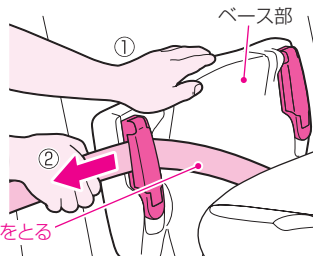
腰ベルトが本体に密着するように、ガイド部の裏側の溝に差し込む。

7 腰ベルトをしめつける。
①チャイルドシートの座面を強く押し、車の座席にチャイルドシートを沈み込ませながら、
②肩ベルトを手前に強く引く。

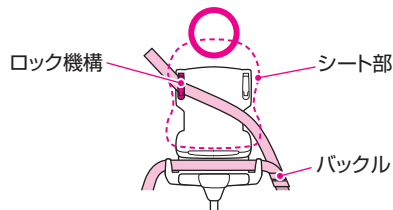
①
②
座面
肩ベルト
※肩ベルトを手前に強く引く。
車の座席
腰ベルト

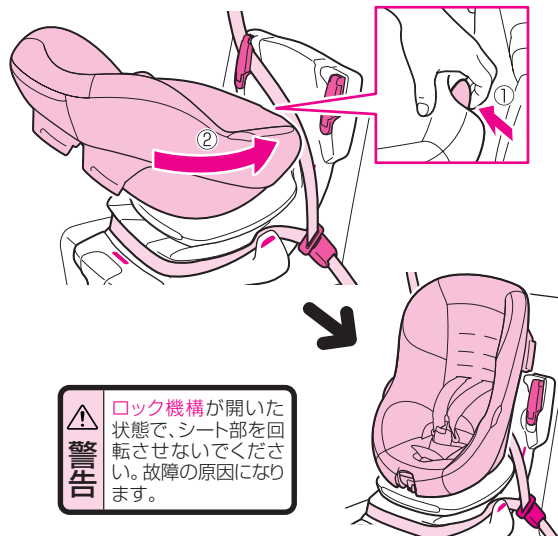
8 肩ベルトを取り付ける。
①肩ベルトを強く引いたまま、
②バックルの反対側のロック機構を開く。

ワンポイント
● 腰ベルトのゆるみがなくなり、チャイルドシートが車の座席の背もたれにしっかり固定されるように、肩ベルトを手前に強く引きます。

つづく

③肩ベルトガイド、④ロック機構の順に、肩ベルトを通し、
⑤ロック機構を閉じる。

バックルの反対側のロック機構を開き、肩ベルトを通し、ロック機構を閉じる。

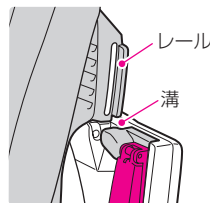
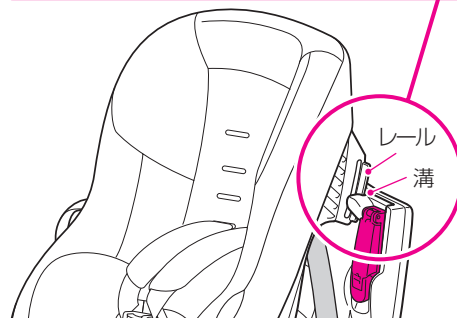
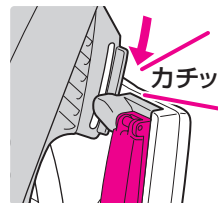
9 肩ベルトをしめつける。

①ベース部をしっかり押さえながら、
②肩ベルトを真横にしっかり強く引く。

ワンポイント
- 肩ベルトのゆるみがなくなるように、肩ベルトを真横に強く引きます。

警告
- バックル側のロック機構は使用しないでください。
- バックルの反対側のロック機構だけを使用してください。

10 シート部を回して前向きにする。

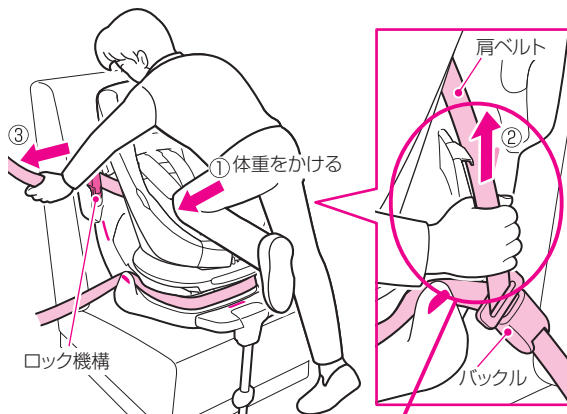
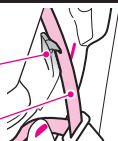
①リクライニングレバーをあげ、②シート部を回す。
動き始めたら、リクライニングレバーから指をはなす。

⚠警告
ロック機構が開いた状態で、シート部を回転させないでください。故障の原因になります。

⚠注意
シート部の回転のしかたについては27ページをご覧のうえ、正しくご使用ください。

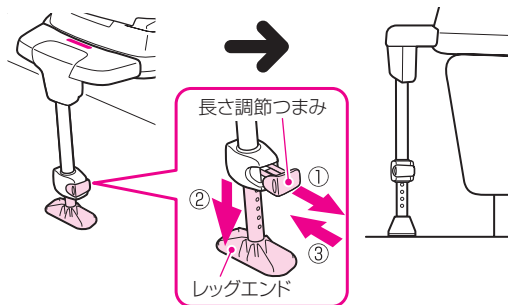
シート部が前向きになったら、
③レールを溝の位置に合わせて、④『カチッ』と音がするまでシート部を下げ、シート部とベース部を固定させる。

車両シートベルトのゆるみをなくし、本製品をしっかりと固定します。

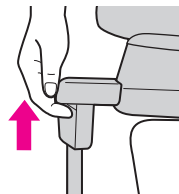
11

①シート部奥にひざを乗せて体重をかけ、車の座席にチャイルドシートを沈み込ませながら、
②バックル上の肩ベルトを上に強く引き、
③ロック機構部分の肩ベルトを真横に強く引き、車両シートベルトのゆるみをなくす。

⚠警告

- 肩ベルトを引く際、肩ベルトが肩ベルトガイドからはずれないよう注意してください。

12

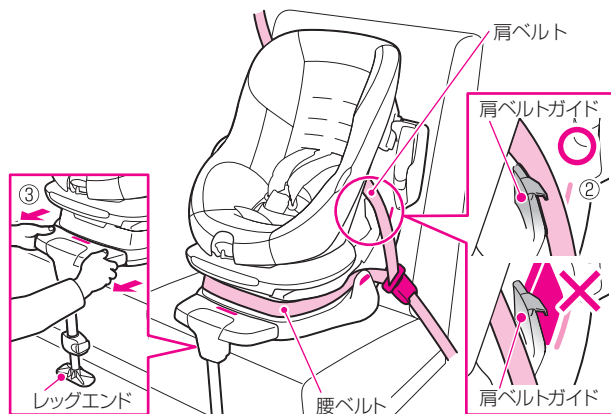
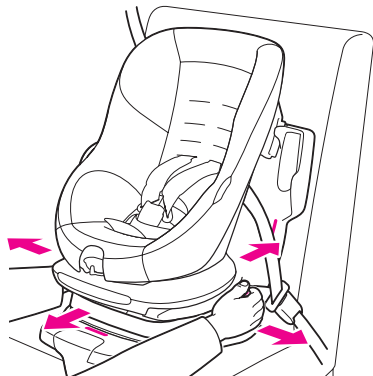
サポートレッグを調節する。
①長さ調節つまみを引いて、②レッグエンドを車の床まで伸ばし、③長さ調節つまみを戻す。

ワンポイント

- 長さ調節つまみが戻らない場合は、レッグエンドが床を突っ張るように、サポートレッグを少し持ち上げながら調節つまみを戻してください。

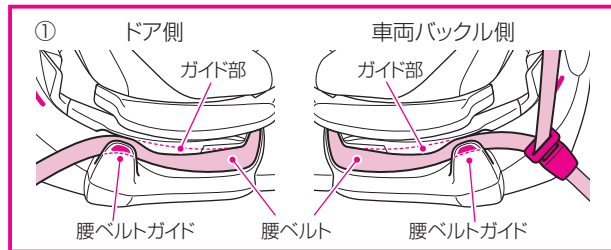
少し持ち上げると長さ調節つまみが戻りやすくなります。

⚠危険　長さ調節つまみを戻したとき、レッグエンドが必ず床につき、床から浮かないように調節してください。

取り付け完了チェックのしかた

⚠警告　取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか確認してください。しっかり固定されていない場合は、チャイルドシートが本来の機能を果たさず大変危険です。

1 ベース部を前後左右にゆすって、約3cm以上動かないことを確認する。

ワンポイント

● 3cm以上動いてしっかり固定されていない場合は、46ページの【しっかり取り付けのしかた】でもう一度固定しなおしてください。

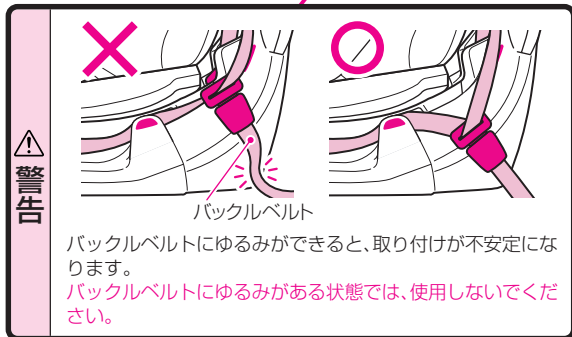
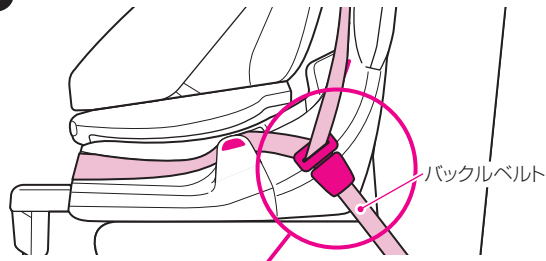
2 ①腰ベルトが腰ベルトガイドやガイド部裏側の溝をしっかり通っているか確認する。
②肩ベルトが肩ベルトガイドにしっかり通っているか確認する。
③サポートレッグが本体にしっかり固定され、レッグエンドが床につくように長さが調節されているか確認する。

3 バックルベルトを確認する。

バックルベルトがゆるんでいないか確認する。

⚠ 警告

バックルベルトにゆるみができると、取り付けが不安定になります。

バックルベルトにゆるみがある状態では、使用しないでください。

ご不明な点は、当社のコンシューマプラザへお問い合わせください。

4 取り付け角度を確認する。

チャイルドシートの取り付けが正しく出来ていないと、「後向き」使用時の取り付け角度が立ちすぎる場合があります。裏表紙の角度チェッカーで取り付け角度を確認してください。

※取り付け角度の確認のしかたは、裏表紙を参照。

⚠ 警告

上側にすき間ができる場合は、取り付け角度が立ちすぎです。そのような状態でチャイルドシートを使用すると本来の機能を果たさず危険です。

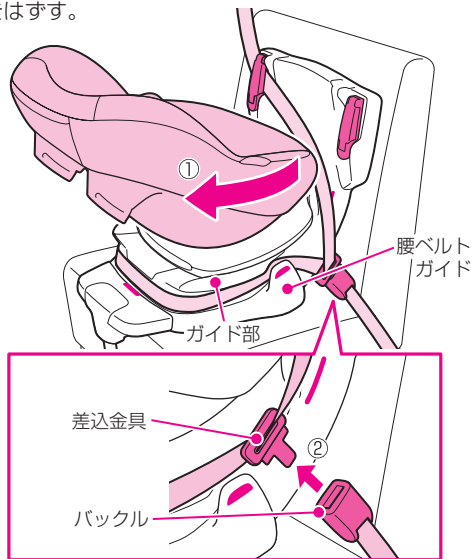
- チャイルドシートを取り付けしなおしてください。
- 取り付け角度が立ちすぎる場合は、その座席では使用しないでください。

車からの取りはずしかた

ここでは、本製品の車からの取りはずしかたを説明しています。車両シートベルトのチャイルドシート固定機能がはたらきチャイルドシートがはずせなくなった場合は、50ページのワンポイントをご覧ください。

1

①シート部を回して後向きにする。
②車両シートベルトをバックルからはずし、ガイド部や腰ベルトガイドから、車両シートベルトをはずす。

⚠注意 シート部の回転のしかたについては25ページをご覧のうえ、正しくご使用ください。

2

ロック機構部分の肩ベルトを握りながら、

※最後まで握っていること

3

ロック機構から肩ベルトをはずす。
①ロック機構を開き、
②肩ベルトをはずし、
③ロック機構を閉じる。

※ロック機構の開閉のしかたは、44ページを参照。

⚠警告 ロック機構を確実に閉じてください。ロック機構が開いた状態でチャイルドシートを扱うと、故障の原因になります。

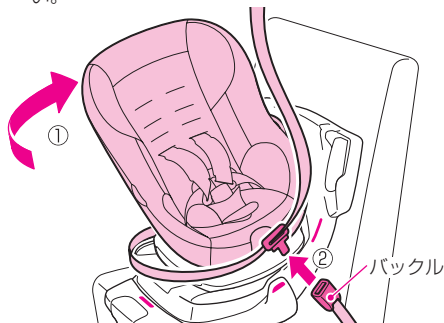
サポートレッグの取りはずしかた

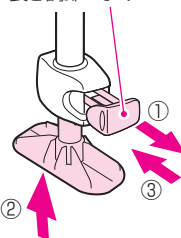
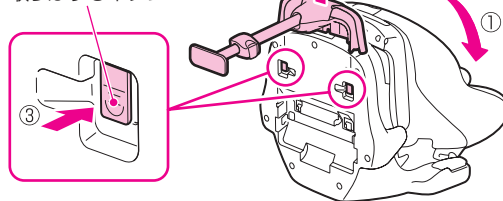
4 車両シートベルトを引き抜く。

ワンポイント

● 車両シートベルトのチャイルドシート固定機能がはたらきチャイルドシートがはずせなくなった場合は、シート部をバックル側へ回転させた状態で、車両シートベルトを引き抜いてください。

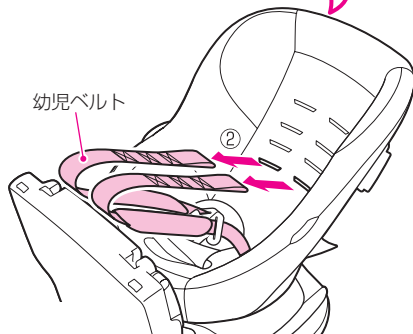
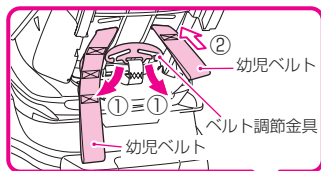
⚠警告	サポートレッグの取りはずしは、チャイルドシートを車の座席から取りはずしてから、車の座席の上など柔かい場所でおこなってください。製品への傷つきや破損の原因になります。

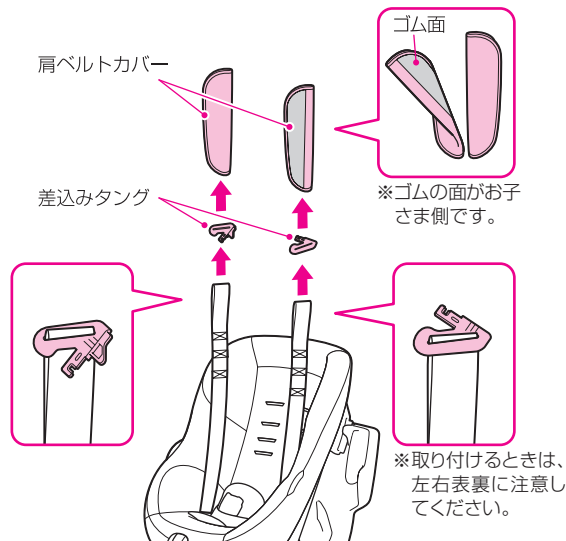
⚠注意	シート部の回転のしかたについては27ページをご覧のうえ、正しくご使用ください。

1 シート部を前向きにする。
（27ページ参照）

2 サポートレッグの長さを短くする。
①長さ調節つまみを引いて、
②サポートレッグを短くし、
③長さ調節つまみを戻す。

3 サポートレッグを取りはずす。
①本体を後方にゆっくり倒す。
②サポートレッグを引っ張りながら、
③左右の取りはずしボタンを押す。

シートカバーのはずしかた・取り付けかた

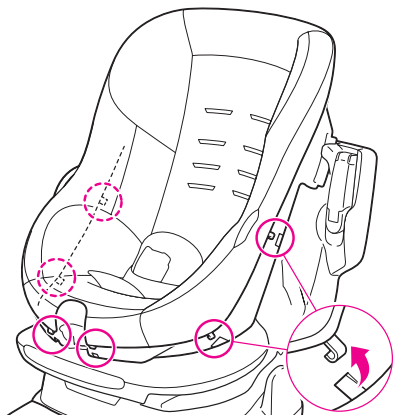
インナークッションについては、19ページ「インナークッションの使いかた」を参照

シートカバーのはずしかた

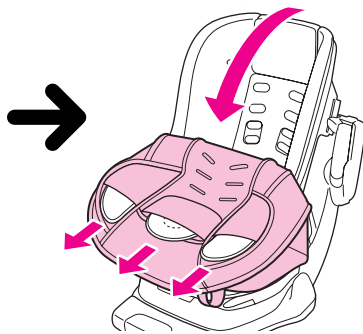
①左右の幼児ベルトを、シート部裏側にあるベルト調節金具からはずす。（30ページ参照）
②幼児ベルトを、シート部の前側から引き抜く

※取り付けるときは、
幼児ベルトがねじれないように注意してください。

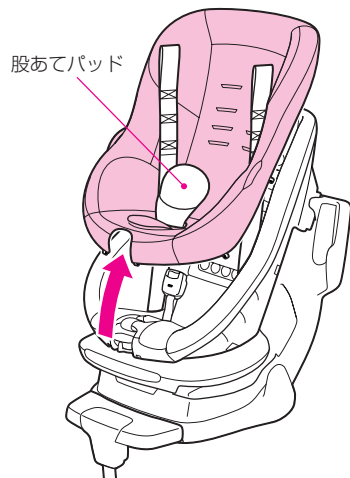
③肩ベルトカバーを幼児ベルトからはずす。

● 差込タングをはずさなくても、シートカバーははずせます。
● 肩ベルト、差込タングには、取り付ける際に「向き」があります。
● 差込タングは、左右を確かめて股あてパッドのバックルに差し込み、無くさないようにしてください。

シートカバーの取り付けかたは、はずしかたの逆の手順です。

④シートカバーの外側にある6カ所のフックをはずす。

エッグショックαパッドとエッグショックパッドの取り付け・取りはずし（ラグジュアのみ）

シートカバーの裏側に、パッド類を取り付けるポケットがあります。

ワンポイント

- パッド類は6ヵ所のフックをはずしシートカバーをめくり、取りはずし・取り付けをします。
- インナークッションへの取り付け・取りはずしかたは、22ページをご覧ください。

⑤股あてパッドのところからシートカバーをはずす。

※取り付けるときは、幼児ベルトをねじらないように表面に引き出してください。

洗いかた お手入れ 保管・廃棄のしかた

シートカバーなどの縫製品の洗いかた

●洗濯時は次のことを守ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。

●インナークッション座面用を洗濯するときは、中に入っているウレタンを取りはずしてください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

※洗濯機、脱水機、乾燥機の使用はしないでください。

エッグショックパッド(ラグジュアのみ)について

●「エッグショックαパッド」「エッグショックパッド」は洗濯できません。

※シートカバーやインナークッションを洗濯するときは、必ずエッグショックαパッドとエッグショックパッドを取りはずしてください。

※エッグショックαパッドとエッグショックパッドは、取り付けなくてもチャイルドシートをお使いいただけます。

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

● 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

本　体

長期間使用しないときは、車から降ろし、風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

取扱説明書

ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、シートカバー後ろ側のポケットに保管してください。（8ページ参照）

廃棄のしかた

●お住まいの各自治体の規程にしたがい処分、廃棄してください。

●衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。事故により処分する場合は、本製品が再利用されないようにシートカバーなどをはずして、廃棄してください。

製品仕様

製品仕様

■製品サイズ：（W）440 ×（D）625 ×（H）705※
※（H）はサポートレッグを除いた数値
（サポートレッグ調節時／+273～458）

■製品重量：本体／13.7kg（L）、13.6kg（EG）
サポートレッグ／1.3kg

■材質：本体…ポリプロピレン、ウレタン
シートカバー…表／ポリエステル　裏／ウレタン

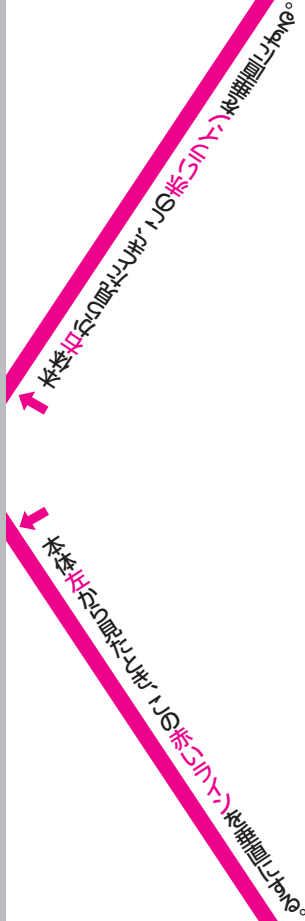
製品を安全に、正しくお使いいただくために。

製品を安全に正しくお使いいただくための情報を、当社ホームページでご案内しております。下記のホームページをご覧ください。

http://www.combi.co.jp/safetyinfo/index.html

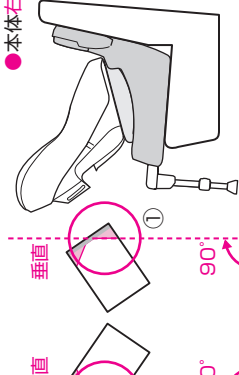
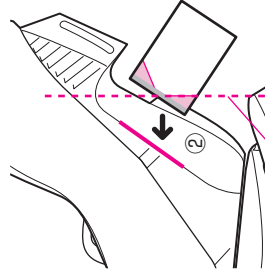
このグレーのラインとシート部背面の線のすき間の状態を確認する

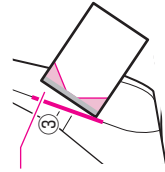
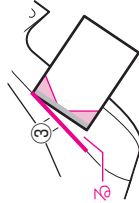
本体左から見たとき、この赤いラインを垂直にする。

本体右から見たとき、この赤いラインを垂直にする。

角度チェッカー

チャイルドシートの取り付けが正しく出来ていないと、「後向き」使用時の取り付け角度が立ちすぎる場合があります。チャイルドシートの取り付けが終わったら、角度チェッカーで取り付け角度を確認してください。（47ページ『取り付け完了チェックのしかた』参照）

シート部を回して後向きにする。
①角度チェッカーの赤いラインを垂直（地面に対して90°）にする。
②角度チェッカーを、シート部背面の線に近づける。
③グレーのラインとシート部背面の線のすき間の状態を確認する。

①角度チェッカーの赤いラインを垂直にする

②赤いラインを垂直にしたまま、角度チェッカーをシート部背面の線に近づける

③グレーのラインとシート部背面の線のすき間の状態を確認する（48ページ参照）

Web上にコンビの育児サイトを開設しています
コンビの製品&育児情報サイト・コンビタウン
http://www.combibaby.com

コンビ株式会社

118146210　09.03

商品に関するお問い合わせ、部品購入、修理などのご相談は、コンシューマープラザにて対応いたします。

コンシューマープラザ（Customer Service Center）
〒339-0025　埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田271
受付時間：10時～17時（日、祝祭日、年末年始を除く）
TEL.（048）797-1000　FAX.（048）798-6109

コンシューマープラザ（Customer Service Center）/西日本担当
〒550-0014　大阪府大阪市西区北堀江1-1-18
受付時間：10時～17時（土、日、祝祭日、年末年始を除く）
TEL.（06）6536-0456　FAX.（06）6536-4468

※ホームページでのご案内　http://www.combi.co.jp/cp/